

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第七小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	・学校教育目標の実現に向けて、校務分掌や組織、体制の見直しを進める。目指す学校像を踏まえ、各学年、ブロックを中心として、円滑に多様な教育活動を実施する。 ・業務改善、組織内連携の観点から校務支援システムの活用を進めている。有効なツールとして定着させ、校務に活用する。	B	・組織的な取組について、ホームページ等で情報提供に取り組むとよい。 ・教職員の仕事過多については、細かなことを言えないので、改善できることは改善できるとよい。働き方改革として行政との連携も大切である。 ・保護者配信アプリは便利であるが、配信量が多すぎるのは連絡の軽重が分からなくなる状況がある。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	・確実な施設設備点検から不備、不具合を改善し、事故を未然に防止する。様々な場面を想定した避難訓練を実施している。 ・生徒指導、教育相談、特別支援教育に係る部会を構成し、主任を中心に計画実施している。生徒指導上の諸課題について情報共有し、共通理解・共通行動で適切に対応する。いじめ防止では基本方針による適切な対応、校内研修、児童アンケート調査、個別面談、教育相談を実施し、記録の共有、引継ぎ等確実に行う。	A	・PTAや地域の人と一緒に避難訓練をする機会があってもよいと思う。 ・夏季におけるブルー授業の実施など、熱中症アラートに対する警戒を適切に判断することが今後必要である。適切な判断の基準や確実な対応について取組を進めてほしい。 ・児童アンケートで高評価を得ている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・会計年度任用職員や通常学級支援員等の効果的な配置から、一人一人の児童の学びを支援する。 ・教科担任制を拡大し、各教科の専門性や授業づくりや教材研究の質を高める。 ・タブレット端末やAIドリルの活用等から、個別最適な学びを充実させる。	B	・欠席の際のオンライン学習について、個々の児童の状況や授業の内容、進み具合に応じて対応することが大切である。 ・音読等、読書による基礎的学習を大切にしている。 ・授業支援のツールとしてのタブレット使用など、端末の活用について引き続き工夫、改善が必要である。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・個別最適な学び、協働的な学びの充実の観点から校内研修を実施し、指導方法の工夫、改善や指導力の向上に取り組む。 ・全国、県学力学習状況調査結果等の分析、活用を一層進め、児童の実態に即した指導を実施する。 ・ICT活用、体験的な学習など、児童の学ぶ意欲を高める授業を充実させる。	A	・基礎学力の定着に関して、教師の個性により指導法に違いが生じるが、国語や算数など積み重ねの学習では、統一した指導法をとることが大切である。校内研修を充実させ、統一するべき内容について確認や検討を行い学習指導に生かしてほしい。 ・AIドリルの活用等、新しいスタイルのドリルを活用している。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・高学年児童の9割以上が集団の中でのルールやマナーを守ることができたと調査回答している。規律ある態度の取組について、児童自身が目標設定をして実践する機会を計画する。 ・学校のルールや決まりについて、児童が意見を述べたり、話し合ったりする機会を設けるなど、児童の意欲を喚起する。	A	・学校にうかがった際、しっかりと挨拶をする児童がたくさんいる。 ・外から学校に来ると、児童はみんなあいさつをしてくれる。 ・規律ある態度について児童自身が振り返ることは良い機会であると思う。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	・生徒指導提要やI's、市三連など、生徒指導に係る研修を充実させ、組織的な指導体制を確立する。 ・児童の実態と効果的な指導の時期を踏まえた生活目標を設定し、向上に向けた取組を全校的に実施する。 ・あいさつ運動では、児童会を主体として自主的な活動を促す。	B	・ルールや決まりの指導にあっては、学校全体として同じように指導できるよう、教員間の共通理解や共通行動が求められる。 ・非行防止教室等の開催、アンケートの実施、生活目標に関する指導により取り組んでいる。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	・体育授業以外にも運動していると児童アンケートで回答したのは約6割であり、機会確保と意欲向上として朝、業間休み、昼休みの外遊びを積極的に奨励している。 ・朝運動で縄跳びや持久走を行ったり、体育的行事の設定から、工夫して体力向上に取り組む。	A	・子どもどうしが声をかけあって、外遊びをしていると聞いている。 ・休み時間に多くの児童が校庭で遊ぶ様子が見られています。 ・校庭等で楽しく体を動かしている様子が見られている。 ・気候の厳しい時期は外に出にくくなる時期であることから考慮が必要である。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・体育部を中心に授業での運動量確保や新体力テストにおける課題のある項目を伸ばすための運動を計画的に実施する。 ・系統的に取り組むことができるなわとびカードやマラソンカードなど体力の成長記録カードを取り入れて全校で取り組む。 ・体育の教科担任制の実施や指導方法の工夫改善など、指導の専門性を高め、体育授業の充実につなげる。	A	・音楽を流して朝運動で児童が走る様子が見受けられます。 ・食料費が高騰している状況であるが、栄養をきちんと摂取できる給食提供を維持することが大切である。 ・児童による委員会等意図的に向上策を講じている様子がわかる。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・企業や県の事業等、外部人材を意図的に受け入れ教育活動で活用している。 ・校区の自治会、市の社会福祉協議会や博物館による出前授業、公民館や消防署、浄水場、事業所などの協力を得て、連携して体験的な学習の充実に取り組んでいる。 ・PTAサークルによる絵本の読み聞かせ活動を実施している。	B	・PTAは、子どもたちの学校生活に知識や力添えをすることに寄与して、先生・保護者の力を取りまとめていくことを担い活動している。 ・授業参観、懇談会があり、様子を見ることができるが、学校を知る機会の充実が求められる。 ・保護者や地域との連携について、見直しを進めることが大切である。 ・学校のことを知る機会を充実させることが必要である。 ・学校評価について分析して取り組んでいければよいと思う。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・地区委員会の連携により、校区内の安全指導やパトロールに取り組んでいる。 ・おやじの会、PTA等による夏まつりやもちつき体験、除草・樹木剪定等を実施している。 ・二中学校区ふれあい推進事業に取り組んでいる。	B	・先生と保護者の距離感を縮めることで、学校の様子を知り、興味を持てたり、学校は保護者の意見を反映させることができるという考え方もある。 ・今のスタイルにあった学校応援団をつくればよい。学校が何に困っているか、地域が学校に何を期待しているか、そういった共有が必要である。 ・読み聞かせや見守りなど協力合っている様子がある。 ・地域、保護者等との連携充実について、避難訓練など更なる検討が求められる。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満